

第六節 災害

四季の変化に富む我が国はまた自然災害にも多く見舞われる。雪害、台風による山腹の崩壊、水害、あるいは日照不足による冷害や干害など多くの自然災害と向きあつて暮らしている。

また火災や交通事故、地震あるいはけが、急病など様々な原因によつて、個人の力だけではどうにもならない事故や災害に見舞われる。

「災害年表」は昭和三四年(59)から平成一七年(05)までの自然災害の一覧を示した。

「昭和三八年一月豪雪」と命名された昭和三八年(63)の大雪は一夜のうちに雪が積み、なかなか解けなかった。降雪が人々の生活に与える影響も大きい。雪景色はあたり一面を雪で覆いかくし、美しい風景を演出するが、生活面では道路での自動車のスリップ事故や、児童生徒の登下校に危険を感じさせ、あるいは農作物への影響も見のがせない。

夏の冷害に苦しんだのは昭和五五年(80)であつた。冷夏と日照不足によつて稲作が不作となつた。昭和五〇年(75)には五月に降った雹^{ひょう}によつてたばこの葉に穴があき大きな打撃を受けた。平成一七年(05)には

第三章 社会と生活

表3-85

井川町の災害年表

1959(昭和34)	伊勢湾台風
1960(昭和35.12.30)	8年ぶり県西大雪、S36.11辻大雪、気温2℃、水道管破裂
1961(昭和36.9.16)	第2室戸台風(18号台風)、全壊流出3戸、半壊10戸、床上浸水30戸などの被害、15日各学校集団下校、16日各学校臨時休校
1961(昭和36.10.25~26)	西日本大雨
1963(昭和38.1.11~13)	「昭和38年1月豪雪」・辻25cm、井内40cm、腕山1m
1963(昭和38.1.23)	吹雪、1.24各学校雪のため集団下校、1.31辻小学校積雪43cm
1963(昭和38.6.14)	集中豪雨
1963(昭和38.8.10)	9号台風、中洪水、各学校登校日を中止
1964(昭和39.9.25)	20号台風、各学校臨時休校、井川町被害を免れる。
1965(昭和40.9.11)	23号台風、井川町被害少なし、各学校臨時休校
1965(昭和40.9.15)	24号台風、洪水期間長く、河道災害大
1965(昭和40.9.16)	25号台風、豪雨、各学校臨時休校
1968(昭和43.2.14~15)	17年ぶりの豪雪、雪台風、雪害、2月15日午前中授業、16日臨時休校、辻積雪20cm、徳島本線不通
1968(昭和43.8.29)	10号台風
1969(昭和44.3.12)	60年ぶりの大雪、臨時休校
1970(昭和45)	春から夏の長雨
1970(昭和45.8.21)	10号台風、辻小運動場1.5m冠水、徳島本線不通
1971(昭和46.8.30)	台風23号台風、徳島本線不通
1972(昭和47.2.10)	大雪、野住分校積雪45cm、徳島本線不通
1972(昭和47.7.)	繁藤(高知県)大崩壊、前線による集中豪雨
1972(昭和47.9)	20号台風
1974(昭和49.9.9)	18号台風、辻小学校運動場水深80cm、大久保農道58m地滑り、井川町内60ヶ所被害、徳島線・土讃線不通
1975(昭和50.5.26)	雹、里川・三椏尾・安田・落倉の煙草に被害
1975(昭和50.8.18)	5号台風、たきばた大崩落
1975(昭和50.8.23)	6号台風、剣山周辺で800mmを越す大雨となった為、吉野川水系の被害総額は51年の台風17号に次ぐ、水害統計史上2番目の大被害となる。大具の駐車場500㎡流失、道路51ヶ所土砂崩れ、井川町の被害9,000万円、昭和51、復興予算71ヶ所、6,061万円